



わたりの 亘理の里から感謝の心をこめて



かつて亘理に暮らす人たちは感謝の気持ちをあらわして、相手になにかを手渡す時には、着物の残り布で仕立てておいた〈袋〉に入れていました。たとえばそれは農家の方が、よそへお土産やお返しとして用いた1升の米であったそうです。特に定まった呼称はなく、今でも「ふくろ」がなまって、ただ「ふぐろ」と呼ばれています。震災により建物を取り壊すことになった亘理町内の呉服店からゆずっていただいた昭和の時代の古い生地を使い、「ふぐろ」を再現しました。

私たちの町、宮城県南部に位置する亘理町は先の震災により、甚大な被害を被りました。ことに海岸地域の家々はすべて津波により失われてしまいました。今もなお多くの人々が仮設住宅での不自由な暮らしを余儀なくされているなかで、私たちは「ふぐろ」作りの手仕事を通じ、町の復興を願うあらたな仲間とのコミュニティを生み出そうとしています。昔ながらのゆかしい風習にならい、大切なものを包み、贈る、その感謝の心を伝えていきたいと思っています。

「FUGURO」は古い着物地の再利用です。限られた材料で作るため、同じものはありません。ひとつひとつがオリジナル。手に取っていただく皆様とは一期一会の出会いとなります。「ふぐろ」は、亘理の地に伝わる原型を再現した復刻版と、ややモダンさを加えたアレンジ版があります。使われる生地によって様々な表情を生み出します。大きさは原型となる1升サイズを大として、中（5合サイズ）、小（1合サイズ）があります。

宮城県亘理町てしごとプロジェクト WATALIS（代表 引地恵）



*「FUGURO」の売上げ代金はすべて製作グループ「WATALIS」の運営資金として材料費・工賃・配送料などの製作費、及び製作環境を整えるための資金に充てられます。



〈わたりのいちごストラップ〉

ご支援のお願い

「FUGURO」はゆずり受けた古い着物地を使っています。今後も継続して製作していくために、ご不要のお着物や帯、反物など材料のご提供を広く求めています。また、展示や販売の場をご紹介いただくご支援、ご協力いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。 宮城県亘理町てしごとプロジェクト WATALIS 一同

「FUGURO」は宮城県亘理町生まれです

亘理町（わたりちょう）は仙台市の南に位置する、伊達氏ゆかりの小さな城下町。温暖な気候を利用した果樹栽培が盛んで、特にいちごの産地として知られています。海岸地区は港町として栄え、シャコにアサリ、阿武隈川を上る鮭とはらこ、ホッキ貝など、豊かな海の幸、「鳥の海」をはじめとする美しい海に恵まれた土地です。

2011年3月11日、この地を恐ろしい揺れが襲いました。東日本大震災。この未曾有の大震災とそれに続く巨大な津波は、多くの人々の命、暮らしをあっという間にのみこみました。それまでのあたりまえの日常が、わずかな時間のうちに奪われました。ことに海岸地域の被害は壊滅的で、家々は流され、今もなお多くの方々が仮設住宅での暮らしを余儀なくされています。暮らしを支えていたいちご栽培などの農業や漁業もまだ元のように再生するには至らず、生活の基盤も失われ、なにより大切な地域のつながりが断たれたままなのです。そんななか、あらたに人とのつながりを復活させようという試みが生まれています。皆が集い、語り、何かを一緒につくり出すことによって支えあう力となります。それが町を復興するエネルギーにつながると信じて。

「FUGURO」はわたしたちが作っています

「わたりのふぐろ FUGURO」も、コミュニティ復活の願いを賭けた、地元的女性たちによる手仕事プロジェクトです。ふるさとに伝わる古きよき習わしや感謝の心をかたちにしようとしています。発足のコアメンバーを中心に、地域の女性たちへ作り手の輪を広げています。FUGUROのマークは日本の伝統文様の「宝袋」をモチーフに、大切なものを包む心表現しています。ふぐろの紐は結ぶ、つなぐ、気持ちのあらわれです。製作グループ名の「WATALIS」ワタリスは、亘理町と“お守り”という意味の“TALISMAN”を組み合わせた造語です。亘理から多くの方々へ感謝の心をお守りのように届けたいという思いを込めた名前です。

WATALIS www.watalis.jp

□引地恵（代表）

□鈴木理佳子／橋元あゆみ／菊地喜久江／高橋泰子（製作指導）

宮城県亘理郡亘理町中町 22 〒989-2351

info@watalis.jp

東北随一のいちご産地だった亘理町。真っ赤ないちごは町のシンボルです。手をさしのべてくれた多くのみなさまへの感謝の気持ちを、ひと針ごとに縫いこめました。てしごとプロジェクト「WATALIS」のサポーターグッズとして販売しています。